

ひとり1改革運動（改革・改善運動）

静岡県

人口：3,775,367人

面積：7,329.15 km²

[平成18年度事例集、5項No11掲載事例](#)

取組の概要

「速く」「ムダなく」「いい仕事」をスローガンに、職員一人ひとりが身近な業務を見直して改革・改善を行い、行政の生産性の向上（業務の効率化と県民サービスの向上）を目指す全職員参加型の改革・改善運動に平成10年度から取り組んでいる。

運動開始後10年目を迎えるが、内容は質・量ともに充実し、平成18年度の取組件数は12,590件（職員1人当たり1.45件）あり、経費や時間の縮減、県民満足度の向上などの効果が上がっている。

取組の紹介

1 その後の状況

- ・ 取組の質の向上を図るため、月ごとに重点的に取り組むテーマとして、平成19年度は新たに「改革事例の共有化」を設け、良い事例を多くの職員が共有できるよう工夫している。
- ・ 平成19年度は運動開始から10年目を迎えたことから、10月19日に、「しずおか新公共経営（NPM）シンポジウム2007」を開催し、ひとり1改革運動のほか、他の県内自治体やトヨタ自動車株式会社をはじめとする企業の優れた取組を参考に、改革・改善運動の効果や実践に当たっての仕組み、工夫などを紹介した。
- ・ 上記シンポジウムの開催に合わせ、ひとり1改革運動の取組経緯や仕組み、優秀事例について分析を加えながら分かりやすく紹介した「県庁を変えたひとり1改革運動」を時事通信社から出版した。

2 前回からの取組効果

（1）平成18年度の取組件数

取組件数は運動開始以来増加傾向にあり、平成18年度の取組件数は、12,590件

(うち改革成果 11,481 件、提案 1,109 件) で、過去 3 年間の累計の取組件数は 34,769 件と全国第 1 位である。

(2) 平成 18 年度の取組効果

事務経費の節減	36 億 241 万円
事務時間の節約	9 万 7,086 時間 (職員 50 人の採用と同じ効果)
経 済 効 果	105 億 7,881 万円
県民満足度が向上した取組	5,935 件

(3) 平成 18 年度の主な表彰結果

平成 18 年度の取組について、優秀な事例などを称えるため、表彰式を開催し、式当日に事例発表を行った中からグランプリ等を選定した。

(グランプリ 1 件)

件名・所属名	内容
情報システム最適化でネットワークとシステムを思い切っかえる 企画部高度情報総室	<p>県の情報システムは、大型コンピュータや通信網が重複して存在し、開発業者に保守を依存するなど、非効率な状況となっていた。そこで、外部評価も取り入れながら、複雑化したシステムを全体として最適な状態に整備していくことにした。</p> <p>平成19年度予算調整では、高度情報総室が各部局の内容を審査することで、1億6千万円削減できた。最終的に全てのシステムが最適化されると、年間4億円のコスト削減が見込まれる。</p>

(準グランプリ 4 件)

件名・所属名	内容
ヤフーとの災害広報協定で発災時にも安定した情報発信 企画部広報室	<p>東海地震が発生した場合、県のインターネットサーバーはシステム崩壊の危険があったが、対応策として県外にサーバーを構築するためには、約1億2千万円の設置費用、年間2千万円の維持費などがかかる見込みであった。</p> <p>そこで利用者が最も多いインターネット事業者ヤフーと災害広報協定を結び、ブログサービスを利用させてもらった。サービス利用料は、ヤフーの好意により無料である。</p> <p>ヤフーでは、サーバーを全国に分散しており、災害時にも安定して利用できる体制を、費用をかけずに確立できた。</p>
森林パトロールサポートカーで不法投棄を未然防止 志太榛原農林事務所 治山課	<p>「森林への不法投棄監視中」というステッカーを、地元の方々と農林事務所発注工事の全ての契約業者の皆さんに配布した。</p> <p>ステッカーを社用車などに貼り、不法投棄を監視し、発見した場合は農林事務所に通報する。</p> <p>この取組は県内に広まり、現在 1,600 台以上の車が「森林パトロールサポートカー」として不法行為の未然防止に取り組んでいる。</p>

<p>業務棚卸表で作戦を再構築、食品衛生監視指導を効率化</p> <p>健康福祉部食品衛生室</p>	<p>業務棚卸表で室の作戦を再構築し、食品監視指導について、施設・業種別に優先度の高いものから実施し、実施日を業種別から地区別に改めることで監視件数を増加させた。</p> <p>(⑩17,086件→⑪42,142件。)</p> <p>これにより、総合計画指標である「人口10万人あたりの食品を原因とする食中毒の発症者数」は、⑩27.9→⑪26.1→⑫14.7(12月末現在)と、減少傾向にある。</p> <p>※業務棚卸表とは、室が目的を達成するために1年間に実施する業務の作戦体系を示し、業務の構造を記述した作戦書である</p>
<p>家畜の頭蓋骨保定器で女性獣医師の作業も安全に</p> <p>中遠農林事務所家畜衛生課浜松分室</p>	<p>家畜の疾病を診断する際に行う脳の検査は、切り落とした家畜の頭を保定するのが難しいため、開頭作業には危険が伴い、また多くの時間と労力がかかっていた。</p> <p>そこで、木材と雨水桙のふたを利用し、安全に頭蓋骨を保定できる装置を、安価に開発した。これにより、女性の獣医師一人でも簡単、安全に作業できるようになり、作業時間も短縮された。</p>

(プレゼンテーション特別賞 1件)

件名・所属名	内容
<p>現場監督業務を当番者が一括して行う方法に思い切っかえる</p> <p>浜松土木事務所都市計画課</p>	<p>遠州鉄道の高架事業は、10工区を監督員10人が分担し、昼間は現場に出て、夜は事務処理という状況であった。</p> <p>そこで、現場監督指名打者制(曜日ごとの当番者1人が全ての現場を一括して見て回る方法)を実施した。この方法によると、当番者以外の9人は、日中に事務ができる。鉄道高架事業のように連続した現場ならではのアイデアである。</p> <p>これにより係の時間外勤務が1,850時間から850時間に減少し、休曜日数は4割増加した。</p>

(4) シンポジウムの開催と本の出版

平成19年10月19日に改革・改善運動をテーマとした「しずおか新公共経営(NPM)シンポジウム2007」を開催したが、300人の募集定員を上回る参加があり、そのうち民間企業等が3分の1以上を占めた。当日アンケート調査を実施したところ、「参考になった」という意見が全体の9割に上るなど参加者からは大変好評で、次の開催やより積極的な情報発信を望む声が多く寄せられた。

また、「県庁を変えたひとり1改革運動」の出版により、改革・改善運動に取り組もうとする県内の市町や企業、全国の地方自治体を支援できるよう情報発信することができた。

3 新たな課題・問題点

- (1) この運動は10年目を迎え、職員の間浸透し、様々な効果を上げているが、引き続き、全庁を挙げてこの運動に取り組めるよう、一層の環境作り、意識改革に努めていきたいと考えている。
- (2) 多くの職員の取組の参考となるよう、優れた身近な改革事例について職員向け電子掲示板などで随時紹介しているが、今後も優れた取組を多くの職員が共有し、さらに発展させて取り組めるよう、庁内向けの広報に努めていく。
- (3) また、今後は改革・改善運動に取り組もうとしている県内自治体等の参考となるよう、本県の取組を広く情報発信し、県全体の行政の生産性の向上を図っていきたいと考えている。

4 住民（職員）の反応・評価

- (1) 平成19年3月に実施した「行政改革に関する職員意識調査」では、ひとり1改革運動取組経験に関する質問で、ひとり1改革運動のパソコン上のデータベース入力やデータベース内容を参考にした経験がある職員の割合は9割を超え、多くの職員によって実践されている。
- (2) 平成19年10月19日に開催した「しずおか新公共経営（NPM）シンポジウム2007」来場者に実施したアンケート調査によると、県の取組を県内市町や企業、他県自治体にも情報提供してほしい、行政・民間・大学等が一堂に会して情報交換できる場で参考になった、行政が熱心に改革・改善運動に取り組んでいて感心した等の意見が寄せられ、本県が取り組んでいる新公共経営（NPM）について、その有効性や普遍性をアピールできた。

5 今後取り組む自治体に向けた助言

- (1) 担当所属への「提案」では早急に実現できないものもあるが、「改革成果」は自らできることを改革・改善するため、効果がすぐに現れることから、本県では、実践した「改革成果」の報告を中心に運動を展開しており、平成18年度は全件数の9割強が「改革成果」となっている。
- (2) マネることも立派な改革であり、「改革成果」の中に、他の所属の事例をマネて、自所属で実施、応用した場合に行う「私たちも実施」を設け、推奨している。
- (3) また、優れた改革を実施した所属や積極的に取り組んでいる所属を表彰したり、取組事例や改革するためのヒントを随時紹介したりするなど、運動を盛り上げ、職員の取組意欲を高めることが重要と考えている。

(参考) 当該取組内容の関連ホームページ

<http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-030a/4-2.htm>

担当部署：総務部行政改革室